フィオリーレ／花月の伝説（1993）

FIORILE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 イタリア／フランス／ドイツ
色彩 Color
時間 118分
初公開日 1994/03/26
公開情報 ギャガ・コミュニケーションズ

【解説】

イタリア・トスカーナ地方のベネディット家に受け継がれた呪われた伝説は、１８世紀末の花の月に、ナポレオン軍の遠征で訪れた青年将校ジャンと土地の娘エリザベッタの恋を踏みにじった、兄の姑息な行為から始まる。彼は妹とジャンの情事の隙に、青年の保管する軍資金を奪い、それを隠し通した。責任を問われジャンは銃殺。一家はこれを恥じて他所に移り住んだ。娘はジャンとの間の子を産むと復讐を胸に秘めて死ぬ。それから百年の後、盗んだ金を元手に大資産家となった子孫が戻ってくるが、ここでも兄は妹と土地の青年の仲を引き裂き、今度は青年を他所に追いやる。これを怒った妹は故意に兄たちに毒茸を食べさせて殺す。そして、第二次大戦の最中、パルチザン活動をする現在の当主マッシモは仲間の娘に恋をし、結ばれるが、暗殺計画に失敗し、地主の彼だけが助かり、娘は何処かに連れ去られる……。この忌まわしい体験を伝説の呪いと信じてマッシモは、息子も孫たちも遠ざけて屋敷に篭もる生活を続けているが、そんな彼を訪ねてフランスから息子一家がやってくる。タヴィアーニ兄弟の作らしく、現在と伝説の昔が縦横に往き来する滑らかな語り口は心地よいが、今回は伝説自体に説得力がなく（フランスの三色の旗がもたらした自由・平等・博愛の思想がイタリアに根づかなかったとの嘆きは分かるが）、話が現代になり、マッシモに恋する娘でＫ・カゼッリが出てくるまではどうにもひ弱。ジャンの幻と会話を続けながら少年時代を過ごす彼のシークェンスや、最後、孫たちが図らずもそのジャンの幻と化ける場面は秀逸だが……。

【クレジット】

監督	パオロ・タヴィアーニ	Paolo Taviani
	ヴィットリオ・タヴィアーニ	Vittorio Taviani
製作	グラツィア・ヴォルピ	Grazia Volpi
脚本	サンドロ・ペトラリア	Sandro Petraglia
	パオロ・タヴィアーニ	Paolo Taviani
	ヴィットリオ・タヴィアーニ	Vittorio Taviani
撮影	ジュゼッペ・ランチ	Giuseppe Lanci
音楽	ニコラ・ピオヴァーニ	Nicola Piovani
出演	クラウディオ・ビガリ	Claudio Bigagli
	ガラテア・ランツィ	Galatea Ranzi
	ミシェル・ヴァルタン	Michael Vartan
	リノ・カポリッチオ	Lino Capolicchio
	コンスタンツ・エンジェルブレット	Constanze Engelbrecht
	ジョヴァンニ・グイデッリ	Giovanni Guidelli
	キアラ・カゼッリ	Chiara Caselli

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.